

3 課

7月17日

不満の根



安息日午後 7月10日

暗唱聖句

ねたみと党派心のあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。
(ヤコブ 3:16、口語訳)

ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです。
(ヤコブ 3:16、新共同訳)

今週の聖句

マタイ 10:34~39、ルカ 12:13~21、フィリピ 2:5~8、ルカ 22:14~30、
マタイ 23:1~13

今週のテーマ

ポプラは樹高が15~30メートルの美しい木です。ポプラは夏涼しく寒冷な気候でよく育ちます。その木材は家具やマッチ、紙などに使われます。鹿やその他の動物たちは、厳しい冬の間、よくポプラの若木の栄養豊富な樹皮を食べて飢えをしのぎます。ポプラは多くの日照を必要とし、冬でも常に成長します。こうしてポプラは、さまざまな動物たちの重要な冬の食料を提供します。

しかしながらポプラは、植物界で最も大きな根を張る植物の一つであることでも知られています。地下で枝分かれした根は広がってコロニーを作りますが、それは比較的早く、広範囲に及びます。ポプラ単体の寿命は約150年ですが、その根という地下の巨大な有機体は何千年も生き続けます。

今週私たちは、私たちの不満の根がどこにあるのかについて学びます。イエスにある真の休みから、私たちを引き離すものはたくさんあります。そのあるものは注意して見なくてもはっきり目に見えています。あの巨大なポプラの根のように、地面の下にあって目に見えないものもあります。私たちを救い主から引き離すそのような態度や行為は、気づかないうちに根を張っている場合があるのです。

問1 マタイ10：34～39を読んでください。イエスが平和をもたらすためではなく、剣をもたらすために来たと言われたのはどのような意味でしょうか。彼は「平和の君」のはずではないでしょうか（イザ9：5(口語訳6節))。

マタイ10：34～39のイエスの声明はショッキングなものであり、そのまま読んだだけでは真意を測りかねます。優秀なボディガードに囲まれて、強い王として生まれる代わりに無力な赤子としておいでになった救い主が、隣人と同様に敵をも愛しなさいと説かれたお方が、今、彼に従う者たちに分裂と争闘をもたらすために来たと言われるのです。彼の弟子たちや聴衆は、私たちと同じように、「これは一体どういうことだろう」と不思議に思ったことでしょう。

マタイ10：34～39の真意は、献身と忠誠にあります。イエスはミカ7：6を引用して、永遠に至る選択を聴衆に迫っているのです。息子は、その両親を愛し、敬うべきです。それは、モーセがシナイ山上で受けた律法の要求でした。分裂と苦しみが神の戦いにおける臨戦態勢の一部であり、同時に愛がイエスへの献身の切り札であるとすれば、これは難しい決断になるでしょう。ここでイエスは私たちに、第一のものを第一にすることを思い起こさせようとしておられるのです。

イエスは37節と38節の三つの文のいずれにも、**ふさわしい**（文中ではふさわしくない）という言葉を使っておられます。ここでいう「ふさわしさ」とは、高い道徳的標準や、あるいは多くの罪に打ち勝った経験によるものではありません。この「ふさわしさ」とは、その人のイエスとの関係に基づくものです。私たちが、母よりも、父よりも、子どもたちよりも、すべてにまさって主を選ぶときに、私たちは「ふさわしい」者となるのです。私たちは十字架の苦しみを選び、そしてイエスに従う者となるのです。

「私には、青年たちが純粋な信仰に突き動かされて十字架を担い、イエスに従うことにまさる望みはありません。若いキリストの弟子たちよ、原則に忠実に、清い義の衣を身にまとい前진しなさい。あなたの救い主が、あなたの才能に最もふさわしい地位と、あなたが最も役に立つことのできる働きへ、あなたを導いてくださるでしょう」（『教会への証』第5巻87ページ、英文）。

時に私たちは、自分の意思によらず十字架を負わされることがあり、時に自分の意思で十字架を負うこともあります。いずれにせよ、私たちが忠実に十字架を負うために必要な鍵は何でしょうか。

利己心は、イエスにある真の休みから私たちを引き離す「罪」と呼ばれる、地下にはびこるポプラの巨大な根の一部のようです。私たちの生活に現れるすべての罪の中で、利己心は最も簡単に表面化するものではないでしょうか。私たちにとって、利己心はほとんど呼吸のように、当たり前のものになっています。

問2 ルカ 12：13～21 を読んでください。このイエスの^{たと}譬えで示されている問題は何か。将来のために備えることは、利己的で神の国を無視することでしょうか。そうでないか、必ずしもそうではないとすれば、イエスは私たちに何を警告されたのでしょうか。

この譬えはルカによる福音書のみに出てくるもので、群衆の1人の質問に対する答えとして語られています。ある男から、兄弟間の遺産に関して質問されたイエスは、彼の調停人になることを拒まれます。そうする代わりに主は、彼の心に潜在する利己心という名の、より大きな問題を指摘されます。主は私たち1人ひとりの行為の下にある根の塊^{かたまり}を示すために、もっと深く地面を掘り返されます。

問3 あなたの生活に顔を出す利己心について考えてみましょう。利己心は、私たちの神との関係に、また私たちの伴侶、家族、教会員、隣人、職場の同僚との関係に、どのように影響を与えますか。

イエスの譬えに出てくるこの金持ちの男は、彼自身の必要と野心のみに目を向けたために、目に見えない天の現実について考えることを忘れました。もっと大きな物、もっと良い物を、もっとたくさんの物を望むことは、神の国の根本原則ではありませんでした。パウロは、イエスが私たちの身代わりになることを決断された動機を垣間見せてくれます。

フィリピ2：5～8は、無私、謙遜、そして愛の青写真を描いています。もし私たちの選択と優先順位が、神と人への愛によって動かされていないなら、私たちはなおも、自分のために地上にもっと多くの倉を建て、天にはより少ない宝を積むことになるでしょう（マタ6：20）。

なぜ人は、いとも簡単に富や物を持つことへの欲望に支配されるのでしょうか。私たちはみな、生きるためにある程度の金銭は必要ですが、私たちはなぜ、どれほど持っていても、常により多くを求めるのでしょうか。

十字架へと続くイエスの地上での宣教の最後の週について学ぶことは、常に私たちに勇気と靈感を与えます。この学びはまたスナップ写真のように、不満と野心がどのように人々を思慮のない言動へと導くかを映し出します。

問4 ルカ 22：14～30 を読みましょう。この厳肅な最後の晩餐の間にも、だれが一番偉いかを言い争う弟子たちを見て、イエスの心はどんなに痛んだことでしょうか（ルカ 22：24）。弟子たちはなぜ、この大切な時に及んでなお、人間的な偉大さに心が向いていたのでしょうか。

教会、家族、あるいは職場で、だれが一番偉いかについて話し合うことはめったにないでしょう。心の中で考えても、それを口にすることはありません。

イエスに従う者たちの集まりでこの話題が持ち上がったのは、これが初めてではありませんでした。マタイ 18：1 では、弟子たちが、「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」という、より抽象的な形に置き換えた問いをイエスにぶつけています。イエスの答えは教訓に満ちています。主が子どもを呼び寄せ、弟子たちの真ん中に立たせると、弟子たちの目は大きく開かれ、眉毛は上がり、驚きの表情に変わります。このイエスの行動には説明が必要でした。マタイ 18：3 で主はそうされます。「はっきり言っておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない」

イエスにある真の休みを見いだすためには、改心、つまり心を入れ替えることが必要です。私たちはまず、外からの助けが必要であることを理解します。私たちは自分に頼ることはできないこと、そして突然、イエスに頼る必要があることを理解します。そして、私たちの価値観と野心がつくり変えられるのを経験します。イエスは弟子たちにお語りになります。「わたしを信じ、子供のように私を信頼しなさい。真の偉大さは、あなたがたの権利を放棄し、神の国の価値観を喜んで自分のものとすることです」

残念ながら、弟子たちは、イエスが彼らと最後の晩餐を共にされたときでもなお、まだこの教訓を学んではいませんでした。

イエスと共に働き、イエスに聞き、イエスの足もとで学んだ数年を経てもなお、彼らは学んでいなかったのでしょうか。人間の心がいかに墮落しているかを示す、なんと悲しい例でしょう。しかし、絶えることのない主の憐れみという、この場面の積極的な面に目を向けましょう。彼に従う者たちのこの情けない議論にもかかわらず、イエスは彼らをお見捨てにならなかったのです。

十字架のイエスを見つめ続けることは、私たち墮落した人間すべてを食い物にする自己称揚の欲望に対して、なぜ強力な歯止めになるのでしょうか。

偽善者とは、演技をして自分ではないだれかであると見せかける人です。この言葉はマタイ23章で7回使われており、イエスがユダヤ人の宗教指導者の中心であった律法学者やファリサイ派の人々を、公の場で辱められた談話に出できます（マタ23：13～15、23、25、27、29）。四福音書はイエスが、姦淫^{かんいん}を犯す者、徴税人、娼婦、そして殺人者にまで、恵みと赦しをお与えになった姿を示しています。しかし主は、偽善者に対しては容赦ない譴責をされました（マタ6：2、5、16、7：5、15：7～9、22：18参照）。

問5 マタイ23：1～13を読んで、イエスが示された偽善者の四つのおもな特徴を書き出してください。

イエスは、律法学者やファリサイ派の人々の四つの特徴をよくご存じでした。紀元1世紀のユダヤ教において、ファリサイ派は保守的なグループの代表で、筆記と口伝の律法を重んじ、儀礼における純潔を大切にしました。一方、サドカイ派は、その多くが裕福な指導者層に属し、しばしばエリート階級であった祭司たちとも交わっていました。彼らはギリシア文化の影響を強く受けており（例えば、ギリシア語を話し、ギリシア哲学に精通していました）、裁きと死後の世界を信じませんでした。しかし両者とも、偽善の罪を犯していました。

イエスによれば、言ったことを実行せず、他人だけに厳しい宗教的基準を要求して自分には適用せず、自分の宗教的熱心さを他人が称賛するように求め、天の父なる神にのみ属すべき誉れと賛美を自分たちに求めるなら、私たちは偽善者なのです。

イエスのみ言葉がいかに鋭く適切であったとしても、主は自ら偽善者と呼ばれたこれらの人々に対しても、溢れる愛と配慮をもってお交わりになりました。「神のみ子が神殿に、それから聴衆にためらいがちな一べつを投げかけられた時、その顔には天来の憐れみがみられた。心の深い苦悩にとぎれる声とにがい涙のうちに、主は叫ばれた、『ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった』（マタイ23：37）」（『希望への光』998ページ、『各時代の希望』下巻77ページ）。

あなたは、イエスがこれほど厳しく非難された偽善の罪は犯していないと言えるでしょうか。どうすれば、このような偽善が私たちの中にもあるのを知り、それを取り除くことができるのでしょうか。

問6 ヨハネ14:1~6を読んでください。私たちの心が落ちつかないとき、どうすれば悩みから解放されるのでしょうか。分裂、利己心、野心、偽善を乗り越える鍵、そして真の休みを見いだす鍵は何でしょうか。

真の安息は、道であり、真理であり、命であるイエスから始まります。主は、この世界で目標を見失い、さまよっている私たちの進むべき正しい方角をご存じです。なぜなら、主ご自身が天の律法の制定者であり、人となられた真理であり、主の御霊が私たちをすべての真理に導いてくださるからです(ヨハ16:13)。私たちが傷つき、疲れ、弱り果て、病み、そして勇気をなくしているときも、イエスは私たちにとって、ほかのどんな命とも異なる真の命なのです。事実、主は私たちに豊かに命を得させると約束してくださっています(ヨハ10:10)。この約束には、私たちの永遠の住まいと永遠の命が含まれるだけでなく、この地上の人生の質が変わることも伴います。創造主は今も豊かに、測り知れないほど与えることがおできになるのです。

「心を騒がせるな」とのみ言葉は、将来に期待して生きるようにとの招きです。私たちの心が沈むときにも、主は私たちの心を引き上げてくださいます。私たちが暗闇と罪に苦しむときにも、私たちの内に善い業を始められたお方はまた、その業を成し遂げてくださるのです(フィリ1:6)。

この地上世界がどんなに悪くならうとも、イエスにあって与えられている約束から目を離してはなりません。主は今、私たちのために、痛みも不安も苦しみも永遠にわたって存在しない「場所を」用意しておられます。これこそが、キリスト・イエスにあって私たちに与えられている希望です。そして、私たちが現在どんな者であっても、私たちの過去がどんなものであっても、この希望は私たちすべてに差し出されているのです。

どんなに私たちが弱く、傷つき、心破れ、すべてにおいて墮落していても、神に立ち帰るための鍵は、主がなおも私たちを受け入れてくださるという事実を知ることです。これこそ恵みのすべてであり、私たちが信仰によって求めたものはすでに与えられていると信じなければならぬ理由なのです。

問7 神は、私たちにどうするように求めておられますか。そして、私たちのその行動に應えて、何をしてくださいますか(エレ3:22)。

ヨハ14:3は、再臨が私たちの信仰の核心であり、どれほど重要かということについて、何を教えていますか。私たちアドベンチストにとって、特にその死の理解において、再臨の約束はなぜかけがえのないものなのでしょうか。

「自己中心の生活には、成長もなければ、実を結ぶこともない。もし、キリストを自分の救い主として信じたならば、自分を忘れて、他を助けようと努力するはずである。わたしたちは、キリストの愛と憐れみについて語り、負わせられるすべての義務を果たし、心には、救霊の責任を感じて、失われた者を救うために、力の限りを尽くさなければならないのである。

もしも、わたしたちが、キリストの霊、すなわち、他に対する無私の愛と働きの精神を受けるならば、自然に成長して、実を結ぶのである。あなたの品性にはみ霊の実が熟し、信仰は増し加わり、確信は強固になり、愛は完成される。そして、すべての純真なこと、すべての尊ぶべきこと、すべての愛すべきことにおいて、ますますキリストのみかたちを反映するようになるのである」(『希望への光』1211ページ、『キリストの実物教訓』46、47ページ)。

教会員の間の問題を扱うにあたって、「両者の心が恵みによって和らげられていない時には、関係者間の話し合いが何時間も続き、彼らの時間だけでなく、それを聞くために引き止められた神の僕たちの時間も浪費されるのである。もし、誇りと利己心が取り除かれれば、たいていの問題は、五分間で解決する」(『初代文集』新装版125ページ)。

話し合いのための質問

- ① 利己心に打ち勝つための具体的な方法を、クラスで話し合ってみましょう。各自のアイデアが実現するために、私たちはどのように話し合えば良いのでしょうか。
- ② 大志を抱くことは本来悪いことではありません。しかし、私たちはどうすれば、野心に心を奪われることなく、神に喜ばれる大志を抱くことができるのでしょうか。
- ③ 私たちの多くは、野心、偽善、利己心、あるいはねたみを外に見せません。外面的には親切を装うことができます。しかしながら、ポプラの巨大な根のように、こうした良くない性質は表面下に潜伏するものです。御霊に導かれた性質の変化は、どのように起きるのでしょうか。私たちは、どうすれば不満という根に勝利し、イエスにある真の休みを見いだすことができるのでしょうか。
- ④ 木曜日の最後の、再臨の重要性に関する問いの答えをもう少し探ってみましょう。結局のところ、私たちは再臨なくして、どのような希望を持つことができるのでしょうか。再臨なくして、キリストが初臨において私たちのためにくださったこと、そして、死は再臨までの眠りであると信じることは、私たちにとってどんな意味を持つのでしょうか。

謎の聖書

コロナウイルスによるロックダウンのため、サンダイル・クマロは、南アフリカの一番大きな町ヨハネスブルグで疲れ果てていました。国家規模のロックダウンは、世界中で最も厳重なもので、550万人の町の中でサンダイルが牧師をしている三つの教会も閉鎖することになりました。厳しい規制のため、公園は閉鎖され、ジョギング、犬の散歩、たばこやアルコールの販売も禁止されました。

他の多くの牧師たちと同様、サンダイルも働きをオンラインに移行し、三つの教会（ヨハネスブルグ中央教会、ヨハネスブルグCBD教会、ヨハネスブルグ都市教会）のメンバーに、説教をライブ配信しました。時々、説教に感動した人々から励ましのメッセージが届きました。しかし、彼にはさらに求めていることがありました。彼は、パンデミックの間にイエスに会う必要がある未信者にメッセージを届けたいと、神に熱心に祈りました。この後に起きたことは彼を驚かせました。

ある日、サンダイルは、知らない番号からワッツアップ（チャットアプリの一種）のメッセージを受け取りました。送り主はヒルトンと名乗り、仕事で使ったミニバンのタクシー内で見つけた聖書の写真を送ってきました。ミニバンタクシーは、ヨハネスブルグでよく使われている乗り物です。

ヒルトンは、「あなたの聖書をタクシーで見つけました」と書いてきました。聖書に書かれた名前と連絡先を見つけ、メッセージを送ったと説明がありました。

サンダイルは、興味深げに写真を見ました。彼は、いくつかの聖書を持っていましたが、写真に写っているものは記憶にありません。聖書は新しく、ワインレッド色の皮装で、高価なものだと思われました。さらに、サンダイルはここ数年、ミニバンタクシーに乗っていません。妻や家族に尋ねても、そのような聖書は見たことがないと言うのです。

ヒルトンは、サンダイルがその聖書に見覚えがないことを気にしませんでした。彼の興味は、むしろ聖書に書かれていることにあったからです。彼は聖書を読んだことがなく、熱心に読み始めようとしていました。彼はサンダイルに聖書研究を頼みました。



サンダイルはその時、神があの祈りに奇跡的な方法で応えてくださったことに気づきました。「普通では考えられない珍しい方法で伝道の機会が与えられました。神様を賛美します。ヒルトンが私との交流を通して、イエス・キリストを個人的な救い主として受け入れることを願っています」